



# 光ぞ晴れた

所在地 〒950-3343

新潟市北区上土地亀4981番地

電話番号 025-387-2412

E-mail j108kousei@city-niigata.ed.jp

学校 HP <http://www.kousei.city-niigata.ed.jp>

挑戦と感動の体育祭へ～275人の本気を集結～

# 笑顔満祭

～たのしんだもん勝ち～

令和8年度 光晴中学校 体育祭スローガン

体育祭に向けた活動が、いよいよ本格的に始まりました。

3年生を中心に、体育祭実行委員会や各軍(クラス)のリーダーが集まり、「どんな体育祭にしたいか」「みんなが楽しめるために何ができるか」を真剣に話し合っています。8日(金)にはカラー抽選、22日(金)には結団式が行われ、学校全体が体育祭へ向かって動き始めました。

中学校の体育祭は、ただ競技を行うだけの行事ではありません。体育祭実行委員会が考えた規定や企画をもとに、各軍のリーダーたちが知恵を出し合い、オリジナルのパネルや応援パフォーマンスをつくり上げていきます。そこには、「自分たちの体育祭を、自分たちの手でつくる」という思いがあります。

集団で一つのものをつくり上げることは簡単ではありません。意見がぶつかることもあれば、思うように進まないこともあります。しかし、だからこそ仲間と支え合い、励まし合いながら乗り越えた経験は、大きな達成感や感動につながります。

体育祭が終わったとき、「頑張ってたかった」「この仲間よかった」と思えるような日々にしてほしいと思います。一人一人の体育祭に向けた思いが体育祭の成功につながります。思いをどのように具体的な行動で表現するか、声かけかもしれないし、率先して行動で示すことかもしれません。1つ1つの場面で求められる自分の役割を理解し、果たしてほしいと願っています。

仲間とともに成長できる時間にしていきましょう。

# 「してもらう幸せ」から「してあげる幸せ」へ

最近「ありがとう」と言ったり、言われたりしたことがありますか。

「ありがとう」という言葉には、不思議な力があります。言った人も、言われた人も、少し温かい気持ちになります。それは、人と人との関わりの中に「幸せ」があるからです。

人の幸せには、大きく分けて三つあると言われています。

## 1 してもらう幸せ

赤ちゃんは、お腹がすくと泣きます。すると、お母さんやおうちの人がミルクを飲ませてくれます。おむつを替えてくれたり、抱っこしてくれたりします。すると、泣いていた赤ちゃんは安心して笑顔になります。泣くということは周りの人に、「自分を見てほしい・注目してほしい」というアピールなのです。

私たちも、小さいころからたくさんの人に支えられてきました。「誕生日をお祝いしてもらった」「困ったときに助けてもらった」「先生や友達に声をかけてもらった」

そんな経験をするとうれしくなったり、安心したりします。これが「してもらう幸せ」です。

今の自分があるのは、これまで多くの人を支えてくれたからです。毎日当たり前のように過ごしている学校生活や家庭での生活も、誰かの支えがあって成り立っています。

だからこそ、「してもらって当たり前」ではなく、「してもらえたこと」に気づき、「ありがとう」と伝えることが大切なのです。



## 2 できる幸せ

私たちは成長すると、「自分でやりたい」という気持ちをもつようになります。最初はうまくできなくても、自分でご飯を食べようとしたり、靴を履こうとしたりします。安心して見守ってもらえる環境があるからこそ挑戦し、できるようになり、そして幸せを感じられるのです。

失敗しても挑戦するのは「できるようになること」が嬉しいからです。「自転車に乗れるようになった」「英語の文が書けるようになった」「人前で発表できた」

そんな経験があるのではないのでしょうか。

できなかったことができるようになることは、大きな成長です。そして、それは努力した証でもあります。中学生の今は、「できる幸せ」をたくさん感じる時期です。勉強、学校行事、生徒会活動など、さまざまな場面で挑戦する機会があります。

成功することだけが大切なのではありません。挑戦し、失敗しながらも前に進むことで、人は少しずつ成長していきます。そして、「できた」という経験は、自分への自信につながっていきます。



### 3 してあげる幸せ

そして、三つの中で最も大切だと言われているのが、「してあげる幸せ」です。

「誰かが困っているときに助ける。」「友達が一人でいたら声をかける。」「仲間のために行動する。」

そんなふうに、「誰かのために行動すること」で、人は相手を笑顔にすることができます。そして、相手の笑顔を見ると、自分自身もうれしくなります。

つまり、「してあげる幸せ」は、相手にとっては「してもらう幸せ」になり、自分にとっては「してあげる幸せ」になるのです。一人の優しさが、周りの人を幸せにし、その幸せがまた別の人へ広がっていきます。だからこそ、「してあげる幸せ」は、多くの人を幸せにできる、最高の幸せなのだと思います。



### 「ありがとう」が幸せをつなぐ



「ありがとう」という言葉は、「してもらう幸せ」に気づいたときに生まれる言葉です。そして、「ありがとう」と言ってもらえることで、「してあげてよかった」という気持ちになります。つまり、「ありがとう」は、人と人との幸せをつなぐ言葉なのです。

体育祭に向けた活動では、多くの人とのかかわりがあります。

「一緒に活動してくれてありがとう」「教えてくれてありがとう」

そんな言葉が増えると、体育祭の活動がより温かい空間になります。

「してもらう幸せ」を知り、「できる幸せ」を積み重ねながら、「してあげる幸せ」を感じられることで成長します。そして、感動空間が生まれます。

今年度の体育祭が、いつまでも心に残る最高の感動空間になるよう、「ありがとう」の気持ちを持ち続けて活動していきましょう。